梅花新聞【香里】
第34号
題字　管長 福山諦法 禅師
発行者　佐々木　孝一
発行所　曹洞宗宗務庁
企画編集　伝道部詠道課

正精進の道

新春を迎え謹んでお慶び申し上げます。

昨年は未曾有の震災により甚大な被害を蒙りました。被災された方々には、心よりお見舞い申し上げるとともに、一刻も早い被災地の復興を願ってやみません。

高祖大師の御歌に

いたつらにすこす月日はををけれと
道をもとむるときそすくなき
（元禄本建撰記）

の一首があります。身心学道の心得を示しますこの歌を、私は折にふれ、そっとお唱えをしています。真理正法の道はたとい嶮しくとも、倦まず弛まず進まなければなりません。梅花流詠讃歌もまた然りと申せましょう。本年は梅花流創立六十周年記念の慶事を迎えます。先達の方々が努力をかさね、道を広げてまいりました。ご苦労をお偲びする次第です。宗門挙げて詠道の隆盛に務めたいものです。

曹洞宗管長
大本山永平寺貫首
福山諦法

「悟りの岸にわたるべき　道を伝えしもろもろの　僧伽に頼るものはみな　南無帰依僧と唱えよや」三宝帰依の念を篤くもち、向上の一路を歩んで下さい。詠讃歌にいそしむ姿は美しいものです。それは指導者並びに講員の皆さまが、真剣であるからです。

詠唱において、所作において、宗旨に適った威儀が、人々の心を打つ故と思います。

百獣の王といわれ奮迅のはたらきをする獅子は、たちむかう獲物がいかに小さくとも、揮身の力を振うといわれます。

労せずして利を貪る社会風調の中、私たちは獅子の姿勢に学ばなければなりません。額に汗して働く誠実さが求められるでしょう。悟道に到るには流汗の正精進が大切です。

皆さまは梅花を通じて真理を尋ねる巡礼者かと思います。探梅の道に鈴鉦の音を響かせながら「香里」の苑に参りたいものです。

ここに梅花講の皆さまのご多幸を祈念致します。

お誓い

・私達は梅花流詠讃歌を通して、
　正しい信仰に生きます。
・私達は梅花流詠讃歌を通して、
　仲よい生活をいたします。
・私達は梅花流詠讃歌を通して、
　明るい世の中をつくります。

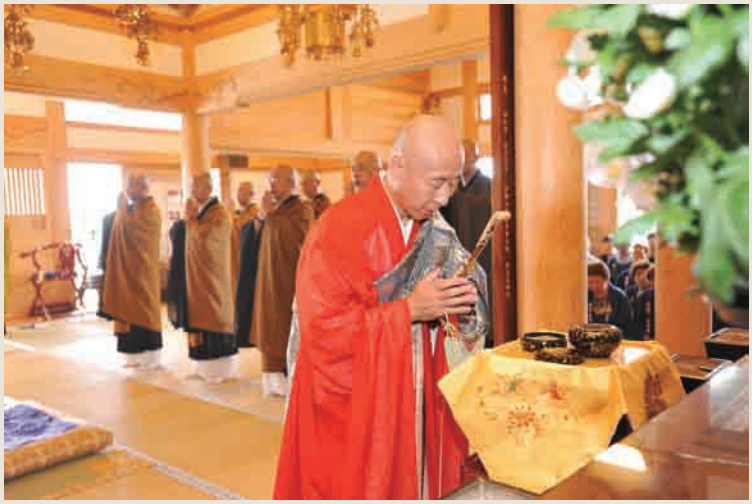
東日本大震災に際し

平成二十三年三月十一日に発生した未曾有の東日本大震災は、人間が築き上げてきた社会を飲み込み、死者、行方不明者合わせ約二〇、〇〇〇人を出し、その猛威は東京電力福島原子力発電所を襲い大惨事が起き、日本全土が大混乱に陥りました。

震災後、ある者はボランティアとして現地に赴き、またある者は募金活動をし、多くの人たちが「今、自分は何ができるか」を考え、大切な物、大切な思い出が奪われてしまった方々の為に立ち上がりました。梅花流においても、多くの関係者による活動がなされています。

東日本大震災物故者供養法会

日時　平成二十三年七月五日（火）
会場　宮城県　一五五番　當行寺
主催　梅花流特派師範有志



平成二十三年七月五日、宮城県亘理町の當行寺にて、東日本大震災物故者供養法会が開催されました。

被災されながらも会場を提供下さった當行寺ご住職、岡崎元明老師が導師をお勤めになり、主催となる梅花流特派師範が全国各地から集まり、参加された多くの梅花講員と共に、被災された方々への供養と復興の願いをこめた法要が行われました。

また石巻市法山寺副住職北村暁秀師より、ご自身の被災体験をふまえた法話があり、参加された方々もご自身の想いと重なり合い、涙を流されていました。

午後からは、講習会が行われ、このような時だからこそ詠讃歌をお唱えしたいという講員さんたちが、一生懸命受講していました。時には和らいだ雰囲気もあり、梅花流専門委員である北野良昭師範からの講義も行われました。

参加者の声

今回の法要に参加できて本当に感動感激しました。先生方の法話や講習は、私たちに元気を与えてくださって勇気がわいてきました。

梅花流を通し、み仏の教えを心に一日一日を懸命に生きていくことが、亡くなった方々への供養になるのだと改めて感じました。

同じ講の講員さんを亡くし、ご供養のための御詠歌によって、私自身も癒された想いです。

全国各地より寄せられた法具

被災された梅花講員の皆さまが梅花流教典、法具を紛失され、お困りになっていました。その為、使用していない法具の寄付を全国に呼びかけたところ「梅花のお仲間のために…この様な時こそ詠讃歌を唱えて元気を…勇気を…」と、たくさんの梅花流教典、法具が集まり、被災された各宗務所へ計二六〇組の法具を贈ることができました。

全国の講員さんより寄せられた法具

涙ながらに話をして下さった法話、私は同じ思いを感じ、涙してしまいました。悲しんでばかりいては、亡くなった方々に申し訳ない。生きている私たちがその分生きて行こうというお話、私はとても印象に残っています。みんなと一緒に生きましょうと強くお話してくれました。

被災講員へ支援する為の募金について

梅花流特派師範の取り組みとして、梅花流特派師範協議会において、師範発議により被災地に法具類を贈る為の募金活動を、梅花流特派巡回教場等で行うことが決定されました。これにより全国の同行同修の皆さまからのお気持ちとして、一五、〇七六、〇〇八円（平成二十三年十二月二十二日現在）の募金が集まりました。心より御礼申し上げます。被災された宗務所からの要請を受けた曹洞宗災害対策本部の依頼により、この募金で梅花教典、法具等を購入し、被災地へ贈らせていただいております。

創立十周年記念奉讃大会
梅花流正法教会（昭和三十年～三十七年）主催

創立二十五周年記念奉讃大会
かわいい講員さんの登壇

梅花流として初めての講習会

創立三十周年記念奉讃大会

今年平成二十四年で、梅花流は創立六十周年を迎えることになりました。梅花新聞『香里』第三十四号では、懐かしい写真と共に、梅花流創立当時の大切な歴史をふり返りたいと思います。

昭和二十年代、戦後の深い悲しみと混乱にみまわれ、心の豊かさなどかえりみる余裕もなかった頃、「人々に心の豊かさを与えたい、釈尊の正しい教えで人々を救いたい、心の底から響き渡る仏教音楽を広めたい」という、今は亡き丹羽仏庵老師（静岡県洞慶院住職）の再三の願いにより、昭和二十六年六月、まだ名もない御詠歌講が曹洞宗の外郭団体として発足されました。

各流派の運営方法や組織などを調査し、各流派のそうそうたる詠匠の方々による御詠歌の公聴会や、歌詞を制定する詠讃歌研究委員会などが開かれました。何度も検討が重ねられ、真言宗の密厳流が曹洞宗の宗風に適しているということで、密厳流を師とする流派となりました。

同年十二月には、流名について「正法流」「芙蓉流」「梅花流」等いくつかの名前の候補が議論されました。その

創立二十周年記念奉讃大会

創立十五周年記念奉讃大会
大本山永平寺門前の歓迎アーチの様子

梅花流六十年のあゆみ

創立三十五周年記念奉讃大会
ハワイ、ロサンゼルスからのご参加の皆さま

「曹洞宗梅花流詠歌和讃講習会」

なかでも両祖さまに深く関係のある言葉を使用しなければ意味がないということから、『正法眼蔵』の「梅花の巻」、また道元禅師さまの修行の地が「大梅山」であること、そして瑩山禅師さまの『伝光録』中の「梅華」という言葉にちなんで、「梅花流」という流名が研究委員会に於いて決定されました。

翌年の昭和二十七年一月には、大本山永平寺東京別院にて密厳流遍照講の師範を講師として迎え、梅花流詠歌和讃講習会（梅花流としての初めての講習会）が開催され、教典の出版披露も兼ね、「梅花流詠讃歌」が正式に発表されました。同年十一月には第一回検定会が行われ、梅花流初の師範が誕生しました。

六十年という半世紀を越える長い歴史を重ねて来た梅花流も、産声を上げるまでには多くの方々のご苦労、ご尽力がありました。そして先人たちの意志を多くの方々が受け継ぐことによって、今日の梅花流へと大きく発展することができました。今ここでもう一度原点をふり返り、梅花流の意義をしっかりと見つめ、更なる発展を願い、共に歩んでいきましょう。

ワンポイントレッスン

梅花流専門委員
新潟県　地蔵院
須戸秀圓

歌声に心たくして六十周年

梅花流詠讃歌を通じ多くの方々との出会い、ご縁、そして何にも代えがたい「まごころ」をちょうだいいたしました。今は亡き丹羽廉芳禅師さまは「梅花講員の皆さまは観音さま、菩薩さまでございますね。お唱えする時は仏さまの心を持って歌声にたくしてお唱えして下さい」といつも梅花流全国大会の会場でやさしくお諭し下さいました。そうしたみ仏さまのお心を持っての全国奉詠大会は「笑う顔」「真剣な顔」「唱える顔」そのお姿がそのままに梅花観音であり、梅花を通しての菩薩行であると受け止めさせて頂いています。

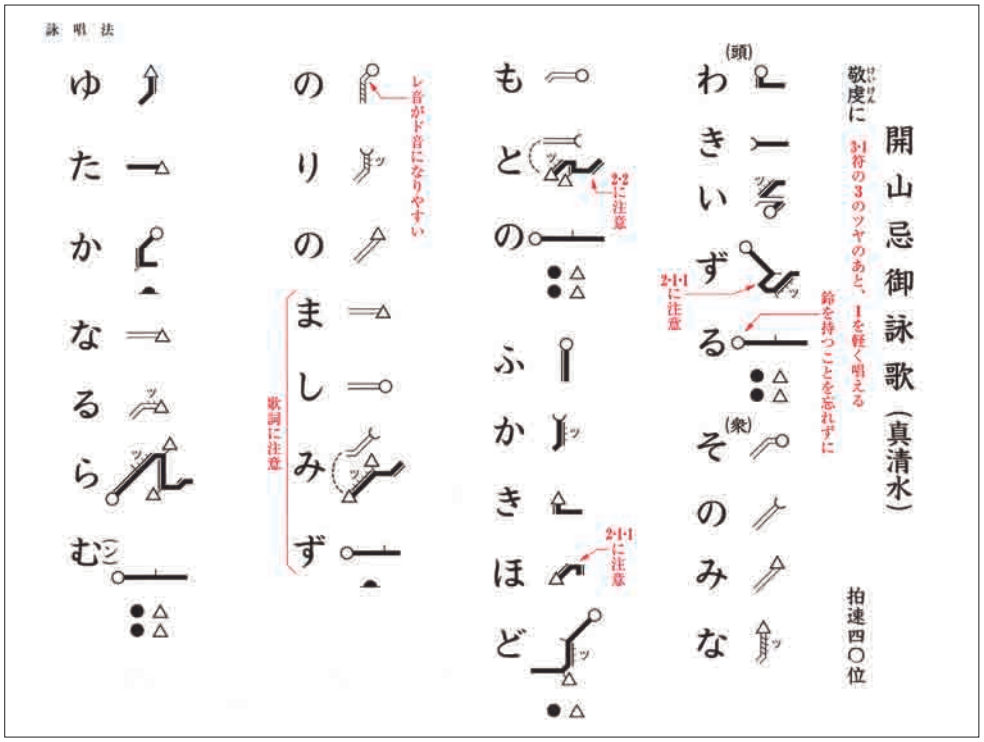
六十周年を迎えこうした心こそ、更なる出発点に向って「とどけたい心」ですね。

開山忌御詠歌（真清水）

ご開山さまの高いお徳と、大いなるご誓願と様々なご苦労など、「その源の深きほど」は学べば学ぶほどに尊く深遠な教えでございます。何度も繰り返し唱えこみをして、歌詞の内容を理解してお唱え下さい。慌てず、急がないでお唱えしましょう。いつまでも「法の真清水」が脈々と続きますようにと、心をこめてお唱えして頂きたいと思います。

「わきいずる」の「わ」は1・3符の1を生かしてお唱え下さい。「る」は打鉦と同時に鈴を上げ始め、定位に至り鳴鈴に移ります。鈴の上げ下げは、ほぼ2拍間で行うようにしましょう。「そのみなもとの」の「そ」は落ち着いて打鉦し1・3符の1を生かして丁寧にお唱え下さい。「のりのましみず」の「の」は1・3符の3が短くならないように。「り」の2・2符は急がないでお唱え下さい。「ゆたかなるらん」の「ゆたか」は2・2符を丁寧にお唱え下さい。「む」2拍は最後までしっかりと唱え、法悦の情を感じとって下さい。

手を合せ心を合せてお唱え続けて頂きたいと念じてやみません。



ばいかくん、ばいかさんからのお知らせ

こんにちは、ばいかくんです。みなさんお元気ですか？

去年もまた、ばいかさんと一緒に全国の皆さんのお招きで、各地の梅花流地方奉詠大会に参加させてもらいました。たくさんの梅花講員さんと握手したり写真を撮ったり、とても楽しかったです。大会で登壇奉詠するみなさんのお唱えはとても上手で、ぼくたちは参加する度にとても勉強になります。

これからも全国のみなさんのもとへ出かけて、梅花流の素晴らしさを伝えていきたいと思いますので、みなさん応援よろしくお願いします。

また、みなさんご存知かもしれませんが、今年は梅花流が創立六十周年を迎え、五月二十九日・三十日の両日、梅花流創立六十周年記念奉讃大会が開催されます。

記念奉讃大会では、毎年の全国大会では行われない記念式典があります。記念式典では梅花流発展のためにご活躍された方々の表彰や、長く梅花流を続けてこられた教範の方々への年功賞・奨励賞の授与など、他にもたくさんの表彰があります。ぼくたちはまだ、梅花流を始めたばかりなので年功賞・奨励賞はもらえないけど、長く梅花流をがんばってきた方は、ぜひ記念大会に参加して賞をいただいてくださいね。

梅花流創立六十周年という大切な節目に、みなさん一緒に参加して楽しく思い出に残る、素晴らしい記念奉讃大会にしましょう。千葉県「幕張メッセ」でみなさんとお会いできることを楽しみにしています。

埼玉県第一宗務所

埼玉県第二宗務所

広島県宗務所

神奈川県第一宗務所

山形県第三宗務所

愛知県第一宗務所

ばいかくん・ばいかさんが参加した地方奉詠大会

2月28日	埼玉県第1宗務所	髙雲寺
3月9日	埼玉県第2宗務所	正光寺
7月3日	広島県宗務所	運西寺
9月14日	神奈川県第1宗務所	秦野市文化会館
10月20日	山形県第3宗務所	乗慶寺
10月20日	愛知県第1宗務所	名古屋市公会堂

詠道課だより

大本山總持寺で檀信徒講習会

毎年恒例となっています梅花流宗務庁主催檀信徒講習会（中教導以上対象）が昨年末に開催されました。

例年は両大本山での開催ですが、本年度は東日本大震災の影響の為、大本山總持寺（十一月二十八～三十日）だけでの開催でした。

全国から大勢の梅花講員がご参集になり、本山で宿泊して充実した講習を受講されました。

横浜市大本山總持寺

平成二十三年度大会中止について

昨年三月に発生した東日本大震災の甚大な被害に加え、福島原発事故の影響による深刻な社会不安等の煽りを受け、被災地のみならず東日本全土に電力不足による計画停電、公共交通網の遮断や物資の不足などの為、大変残念ではありますが、島根県で開催を予定しておりました平成二十三年度梅花流全国奉詠大会は中止となりました。

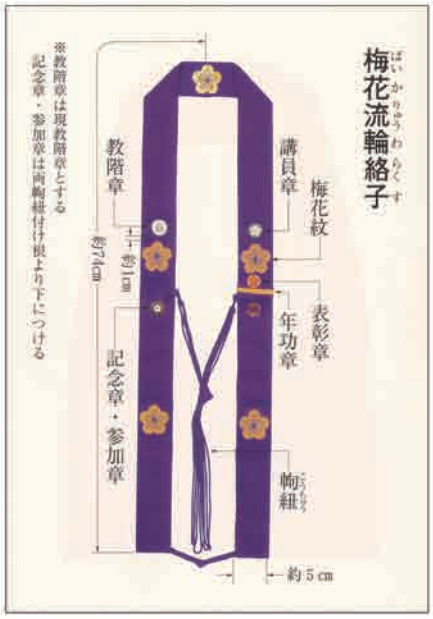
梅花流創立六十周年のお知らせ

平成二十四年に、梅花流は創立六十周年を迎え、五月二十九・三十日の両日、梅花流創立六十周年記念奉讃大会が千葉県「幕張メッセ」にて開催されます。

これにともない記念大会の参加、賛助会員のうち、講員歴五年以上の教範の方々へ年功賞（平成十九年五月三十一日以前の入講者）・講員歴二十年以上の教範の方々へ奨励賞（平成四年五月三十一日以前の入講者）の授与を予定しております。

各講長さまには該当者のご確認をお願いします。

梅花流創立六十周年という節目の大会になります。梅花流のよき歴史にふれ、新たな一歩を踏み出しましょう。皆さまのご参加をお待ちしております。



※年功章・表彰章は左記をご参照の上、所定の位置に着けていただくよう、お願いします。

梅花流法具のご協力を

現在海外でも盛んに梅花流の活動が行われ、梅花流特派師範が毎年ハワイや南米で巡回講習をされています。昨年は大震災の影響の為中止となりましたが、有志の師範により現地での巡回講習が行われました。

海外で巡回講習をされてきた師範の方々よりの報告には、現地ではまだ講員さんに法具が行き渡らない状況にあるとのことです。

また国内でも大震災により被災地では、梅花流法具を紛失され、お困りになっている方が多くいらっしゃいます。みなさんのお手元に使用していない、眠っている法具がございましたら、ぜひ詠道課までお送りください。

梅花流を学ぶお仲間のもとへ、みなさんの思いと法具をお届けいたします。

海外での活動の様子

曹洞宗のホームページ「曹洞禅ネット」で詠讃歌がきけます。
http://www.sotozen-net.or.jp